

肝細胞癌初回肝切除後の残肝再発に対する予後予測：ノモグラム

原発性肝癌のほとんどは肝細胞癌 (Hepatocellular Carcinoma, HCC) であり、日本では年間約 3 万人が肝細胞癌によって死亡している。肝細胞癌の多くは B 型肝炎ウイルスや C 型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変からの移行により発生している。肝細胞癌の特徴としては肝切除により癌細胞を完全に取り除いた場合でも、残った肝臓に癌が再発することが多いことがあげられる。そのため、肝細胞癌が再発したときの予後を予測することが臨床において重要である。ところで生存時間解析によって得られるハザード比は臨床家にとってなじみがなく、臨床現場においてハザード比を用いることなく患者の予後を予測することが求められる。そこで臨床現場で計算することなく予後を求められるノモグラムの作成を行いたい。

本抄読会では、今回使用するデータの紹介と解析の結果の報告を行い、今後の課題について検討する。